

# 広島大学

令和 8 年度 広島大学光り輝き入試  
総合型選抜Ⅱ型

## 解答例・出題の意図等

文学部 人文学科  
地理学・考古学・文化財学コース  
地理学

### 科目名：小論文

解答の公表に当たって、一義的な解答が示せない記述式の問題等については、「出題の意図又は複数の若しくは標準的な解答例等」を公表することとしています。

また、記述式の問題以外の問題についても、標準的な解答例として正答の一つを示している場合があります。

令和8年度 広島大学光り輝き入試総合型選抜（Ⅱ型）  
文学部人文学科 小論文問題 解答又は解答例 出題の意図等

|    |     |
|----|-----|
| 分野 | 地理学 |
|----|-----|

解答例

ある地域における「関係人口」とは、その地域に定住しなくても、継続的に関わってくれる人々のことを指す。例えば、自分のお気に入りの農山村に週末ごとに通ってくれたり、頻繁に通わなくても何らかの形でその地域を応援してくれるような人たちのことを指す。観光で短期間しか滞在しない「交流人口」と異なり、地域との関係が中長期的に継続することに特徴がある。

こうした「関係人口」と呼ばれる人々が増えている背景として、以下の3点を指摘できる。第一に、近年の日本人のライフスタイルが多様化している点である。具体的には、人々が農山村に関わる動機が、単なる田舎への憧れにとどまらず、ビジネスチャンスであったり、地元住民や先輩移住者との関係であったりと、ライフスタイルの多様化にともない農山村との様々な関係を求める人々が増えており、そのことが「関係人口」の増加につながっていると言える。

そして第二の背景として、近年めざましい情報通信技術の進化によって、そういった農山村との多様な関係性を構築することが容易になっている点をあげることができる。具体的には近年、農山村サイドから様々な情報がSNS等のソーシャルメディアを通じて毎日のように発信されている。なかでも、農山村でのボランティア募集などは定番となっている地域情報であり、都市住民がそのような情報をきっかけとして、農山村との関わりを持ち始めるというケースは多い。

さらに第三の背景として、近年、人々のあいだに「関わり価値」とも呼べる意識が醸成されつつある点を指摘できる。これは、地域との関わりを持つこと自体にある種の価値を感じる人々が増えていることを意味し、そうした人々が「関係人口」として農山村との関わりを持つようになっている。それら「関係人口」と呼ばれる人々は、農山村で仕事をすることや、農山村の地域振興に貢献するといった直接的な動機よりも、地元住民や先輩移住者などと関係性を築くこと自体に価値を見出している者が多い。そうした価値観は、とくに20歳代を中心とする若い世代を中心に広がっている。

以上のように、人々のライフスタイルの多様化、情報通信技術の進化、そして「関わり価値」の意識が若い世代に浸透していることが、近年の「関係人口」増加の主な背景であると言える。(944字)

出題の意図

近年の農山村を取り巻く新たな動きである「関係人口」について、その定義（とくに交流人口との違い）を適切に説明することができるか、また近年「関係人口」が増加している社会的・経済的な背景について多面的な視点から適切に説明することができるかを問うた。